

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム ひだまり2

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500089		
法人名	社会福祉法人 美楽会		
事業所名	グループホーム ひだまり2		
所在地	〒023-0106 奥州市水沢羽田町久保53番地3		
自己評価作成日	令和2年8月1日	評価結果市町村受理日	令和2年10月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の皆さんが、自分らしく健康で生きがいを持ち、安全に暮らしていけるように職員が協力しながらサポートしております。町内には、同法人施設が数か所あり、また系列の医療法人もある為健康面、医療面においても安心して頂けると思います。近くには公園や地区センターがあり、地域の行事に参加したり、公園でお花見を楽しんだり気分転換にも最適な場所です。当ホームにも広いウッドデッキがありますので、天気の良い日には皆さんでお茶会を楽しんだりしております。秋祭りでは、地域の婦人会の方々にも協力して頂きながら、色々なメニューで入居者、ご家族はもちろん、地域の方々にも喜んで頂いております。ドライブでは、胆沢方面、金ヶ崎方面、江刺方面など色々な場所へ出掛けたり、近所のコンビニへちょっとした買い物に出掛けたりもしています。1年365日の内、少しでも多くの時間を楽しく有意義に暮らして頂けるように職員一同が全力でサポートさせていただきます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、最寄りの新幹線駅から徒歩5分の住宅地に立地し、法人運営のグループホームやデイサービスセンターと向き合い、隣にはサービス付き高齢者住宅がある。地域内に系列医療法人の病院があり、利用者は安心な暮らしが出来ている。町内会に加入し、利用者はいきいきサロンや花植え等の地域活動に参加している。小学生や地元住民の皆さんとの交流も定着しており、秋祭りには婦人会の協力で恒例の健康食が振る舞われるが、今年は、コロナウイルス禍のため地域との交流を自粛している。利用者の家族には、毎月、必要な日用品の連絡に併せ個々の生活の様子を報告する「ひだまり2からのお知らせ」を送っており、信頼関係は良好である。近くの北上川の水位が上昇した際には、自主判断で高台にある同一法人の特養に一晚避難するなど、災害に対する職員の意識は高い。最近、姉妹グループホームやデイサービスセンターとの交流が少なくなっているとの自己評価もあり、これまで以上に相互の連携を図り、協力しながら介護サービスの質の向上に取り組んで行くことが期待される。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年8月27日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議の際には、全員で理念並びに介護4原則を唱和している。また、事業所内に掲示して常に目につくようにしている。	法人理念の「健康寿命への心ある支援」をもとにホームとしての基本方針5項目と介護4原則を定め、職員会議で唱和するなど、共有、確認を行っている。管理者は、理念等を具体的に実践するための目標を設定し、プラン等に反映させるなど、目に見える形にして利用者を支援したいとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	可能な限り地域行事に参加したり、事業所の行事に協力していただきながら交流できるようにしている。 (今年度は中止している。)	自治会に加入し、班活動に参加している。例年、地域の高齢者対象の「いきいきサロン」や地元の産業まつり「躍進祭」に参加し、また地元小学校2年生の来訪による演劇の発表等のふれあい交流が行われてきたが、今年はコロナウイルス感染予防のため中止とした。ホームの夕涼み会、秋祭り、敬老会等の行事へ地域の方々の招待もやめ、内部のみの実施となった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	過去に講演や寸劇をした事があるが、積極的に行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況等の報告により、話し合いの中で出た意見をサービス向上のために活用している。	3回は隣接のグループホームと合同により、3回は単独で年6回の開催となっている。本年度は、これまでは資料を送付し、意見をいただく書面会議になっている。服薬の取り違えが2件発生し、委員から改善案が出され、インシデント管理に役立てた。家族代表の2人の委員からは、昨年の敬老会の際に「豚汁」を提供していただいた。日勤の職員が記録係として出席し、会議の話し合いの内容をホーム全体で共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議において、市の担当者からも意見をいただきながら協力関係を築くように努めている。	市からの事務連絡等は殆んど文書によるが、照会や相談事は電話やメールで行っている。総合支所は近くにあり、直接出向いて情報交換を行うこともある。市の介護相談委員が年2回来所し、利用者と面談している。今年度から、市のweb情報を活用し、ホームの空き情報やPRなどを広報するため、毎月ファックスで地域包括支援センターに提供している。	

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム ひだまり2

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を定期的開催しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。特にスピーチロックについては注意をしている。	「身体拘束廃止委員会」は、運営推進会議委員と管理者、計画作成担当者、職員1名で構成し、3か月毎に「運営推進会議」に合わせて開催し、身体拘束防止に関する話し合いを行っている。ベッドからの転倒防止のためセンサーを使用している利用者がいる。スピーチロックについては、地元の方言を使うことで馴染みに繋がることもあり、利用者の受け止め方に配慮しながら、一人一人に合わせた言葉のやり取りを行うよう職員間で確認しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行っているが、資料が少ないと思う。身体状況の確認を行うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、必要性があると思われる方が居ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	読み合わせを行いながら十分な説明を行い、質問等にも答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会の際に御家族から意見・要望の聞き取りをしたり『御意見・ご要望メモ』を送付して収集を図っている。	毎月、請求書に併せ、お便りで利用者の近況を個々に報告しているが、今年度から「ご意見・ご要望メモ」を一緒に郵送している。運営に関する意見等はないが、コロナ禍の中、お花見を実施したことへの謝意などが寄せられている。家族代表の運営推進会議委員は、市主催の認知症講座に参加されるなど、積極的に介護の勉強をされ、ホームの運営にも協力的である。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ひだまり2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議、職員全体会議等で意見を聞き、検討したり反映できるようにしている。	月1回の職員会議(全体会議)を目指しているが、隔月開催の現状にある。毎週木曜日に「ケア会議」を開くほか、申し送り、ミーティングで利用者への支援方法や課題などについて職員から活発に意見が出る。個人面談は特に定例化していないが、管理者は、個別に話を聞く機会を作るよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めて頂いていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や法人内研修の機会を確保するように努めている。 (今年度は中止)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いわて地域密着型サービス協会に入会しており、交換研修会等を通してサービスに生かすようにして来たが 近年はあまり参加できていない。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との会話の中で不安に思う事や要望等を聞きとるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談で質問や要望に答えながら、関係づくりに努めている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ひだまり2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所施設のため他サービスは利用できないが、ケアマネを中心に必要なと思われる支援を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する仲間という意識を持って、本人の出来る・出来ないことを見極め残されている力を発揮できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日用品の補充や受診対応等で家族にも責任を持って支援していただく事もあり出来ていると思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会や外出は積極的に受け入れているが、実際に行っているのは一部の方のみである。 (今年度は中止している。)	3月以降制限してきた家族や県内知人等の面会は、6月中旬に一旦解除したが、7月から再度制限し、玄関の扉越しに話したり、届け物を渡してもらっている。解除した時期に、来所した理容サービスを受けたり、馴染みの美容室に出掛けた利用者もいたが、現在は中止している。家を気にしている利用者があり、ドライブで自宅周辺を回ることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性等に注意しながら孤立しないように職員も加わり良好な関係にいられるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な方には支援するようにしている。郵送する物と一緒に一言コメントを添えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを読み取る努力をしている。	話題や話のきっかけを工夫し、本人の思いや希望を引き出し、丁寧に聞いている。思いをうまく伝えられない人については、本人の気持ちを押し量る仕草や動作をケア会議で共有しながら把握に努めている。訴えが強く興奮気味になる人には、職員で連携して対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの活用や本人、御家族、他職員の話し等から情報収集するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で観察するとともに職員間の情報を共有しながら把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に現状に即した介護計画を作成していると思うが必要な関係者との話し合いは出来ていない。	利用開始時のケアプランをもとに支援を行いながら状況を把握し、目標期間の調整を行ったうえで次のプランを作成している。居室担当者からの毎月のモニタリング報告をもとに、計画作成担当者は他の職員からも意見を聞きながら、現状に合ったプランになるよう継続的に見直しを行っているが、本人、家族と話し合う機会が少ないとしている。	ケアプランにホームとしての介護支援に加え、家族との話し合いを通じて、家族の立場で取り組める役割等も記載することが望まれる。このことにより、本人のホームでの暮らしを支えるための家族との連携、協力が一層深まるものと期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケア記録として記入しているが気づきや工夫の部分についての記録が少ないと思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応できている部分もある。サービスの多機能化とは言えないと思う。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ひだまり2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のコミュニティとして行事に参加する事はあるが一人ひとりが豊かな暮らしを楽しむまではできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に一度事業所で決まっているかかりつけ医の訪問診療がある。それ以外で眼科、整形外科等それぞれのかかりつけ医へは御家族が対応している。	利用開始の時点で、家族の同意の上、かかりつけ医を近接のホームの協力医(系列医療法人の病院)に切り替え、週1回の訪問診療を受診しており、体調不良時には即対応してもらっている。眼科、整形外科などの専門医への受診は家族が同行している。訪問看護ステーションの看護師が週1回 来所し健康管理指導を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の訪問看護で情報を共有するとともに必要に応じて連絡を取りながら受診や看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	連絡を取りながら情報交換している。入院が長引き退去となる時には退院後について御家族からの相談にも応じて頂けるように依頼もしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師、看護師、御家族等とは連携している。医師から御家族へ説明していただく事もある。早い段階で次の施設を考える等の対応して頂いている。	重度化や看取りの対応については、その時点で運営母体の法人が運営する特養への入所や系列病院への入院を中心に相談することで、利用開始時に本人、家族に説明しており、早めに特養等への入所申請をお願いしている。ホームとして看取り指針は策定しているものの、看護体制が確立しておらず、看取りは行わないこととしている。ここ1年で1人が入院、3人が特養に移っている。現在、重度化傾向にある利用者や終末期を迎えている利用者はいない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル等は準備しているが定期的な訓練は出来てない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所として計画的に防災訓練は行っているが、地域との協力体制は出来ていない。	年2回の夜間想定火災避難訓練の他に、北上川氾濫による洪水浸水想定区域になっていることから、年1回水害避難訓練を実施している。各訓練は、隣接のグループホーム、デイサービスセンターと同じ日に別々に行っている。実際に、北上川の水位が上昇した際に、ホームの独自判断で高台にある系列の特養に避難し、1泊したことがある。火災避難訓練では、立ち合いをお願いした消防署から、各施設の相互協力を検討するよう指導を受けている。	隣のサ高住も含め、敷地内の全施設による合同避難訓練の実施について検討することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応には注意しているが時々馴れ合いになっているかなと思う部分もある。	日々の暮らしの中で、利用者とのやり取りが馴れ合いになっていることもあり、時と場面により、親しみを込めた話し方と敬意を持った話し方との使い分けを心がけている。居室入室の際は、了解を得てから入るようにしており、私物に勝手に触らないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく本人の意思確認できるような声掛けをしている。押しつけにならないように注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所としての日課が大体決まっているが職員の押しつけにならないように一人ひとりのペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る方には自身で行ってもらったり決めて頂いたりしている。出来ない方には職員が考えながら支援している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ひだまり2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを考えながらメニューを立てている。今年度はコロナの影響で食材準備や食器拭きを行っていない。	翌月の勤務割をもとに朝・昼・夕、各食の当番職員を決め、それぞれ工夫しながら割当て日のメニューを作成し、1ヵ月分の献立表にまとめ、当番が当日の調理を行っている。季節毎の行事食を工夫し、ミニ菜園で収穫したトマトやピーマンを随時利用するなど、地産地消を心がけており、調査日の昼食も彩りよく食材を使い、地元産の麺を使用していた。職員は昼食を除き、朝食と夕食と一緒に摂りながら楽しい食事の時間になるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた量、栄養バランス、水分量がある程度確認できていると思う。水分摂取が少ない方への声掛け、こまめな水分補給、食欲低下の方へのチェック表記入等行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの力に応じた口腔ケアをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを見ながら声掛けやトイレ誘導を行い自立に向けた支援を行っている。	昼夜ともトイレでの排泄を基本に適時の誘導を行っている。全介助の利用者はいない。夜間も声かけによりトイレに立っている。便秘傾向の利用者が多く、下剤に頼ることも多いが、昼食に寒天のデザートやヨーグルトを提供するなど、食材の工夫もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事でヨーグルトや寒天食を取り入れたり、体操等で便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にあった支援をしている	事業所の都合で曜日や時間帯を決めている。入浴中には会話や歌を唄い楽しめるように努めている。	月、水、金の週3回、全員に入浴してもらっている。職員体制から、一人一人の希望に合わせた入浴は難しいが、一番湯を好む人等、出来るだけ希望に沿うようにしている。また、入浴を好まない人には一緒に童謡を唄うなど、気持ちを和ませてもらいながら気分よく入浴してもらうよう支援している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ひだまり2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調や遮光カーテン等で気持ち良く眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を確認しながら症状の変化等にも注意するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好みに応じ、塗り絵、計算問題、軽作業等に取り組んで頂いている。ドライブや月ごとの行事等で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で現在は少人数でのドライブや散歩等で少しでも外の風に触れて頂いている。	ホームの周辺は、交通量も少なく公園もあり、天気のいい日は散歩に出掛けるようにしている。ウッドデッキで車いす利用者も一緒に日向ぼっこをして外の空気を吸う時間もつくっている。遠出のドライブは控えており、欲しいものをはっきり示して買い物に行きたいと意思表示する人もいることから、複数でミニドライブや近所のコンビニに買い物に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所で預かって管理しているが希望があればお渡しして買い物等して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族からの電話を取り次いだり本人の希望があれば電話したりしている。携帯電話で話す方もいる。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ひだまり2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔保持や空調などに気をつけている。季節を感じる飾り付けや花を生けたり、入居者の作品を飾ったりしている。	南向きのリビングにウッドデッキが繋がり、4カ所の天窓もあり、明るく開放感のあるホールになっている。食事や創作等をするテーブルが2セット置かれ、並列してゆったりくつろげるソファが用意されている。事務室、調理室ともオープンカウンター式になっており、利用者と職員は気軽に声をかけあい、また各居室も見渡せる。ホールに面した8畳の和室はカーテンのパテーションで間仕切りすることが出来、家族等の面会に利用されている。床暖、エアコンなどで冷暖房や空調を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内では食事席の他ソファやベンチがあり、うっとデッキにも椅子が用意してあるので自由に行き来できる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んでいただいたり、家族との写真を飾る等して居心地良く過ごせる工夫をしている。	各居室のドア上部に木製の庇をつけ、利用者のマイホームとしての雰囲気を出している。本人や家族と相談しながら、使い慣れたものを持ち込み、自分好みの部屋づくりをしている。エアコンにより冷暖房を行っているが、夏季には暑さを緩和するため、屋外に遮光ネットを貼っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	体力低下等で掴まるためのベッド柵が必要な方も居る中で万全とは言えない。また、分かりやすさを求め張り紙をするが、配慮が必要な部分もある。		